

令和8年度 第1回 小牧市健康づくり推進審議会 議事録

日 時	令和8年5月20日(水) 14時00分～15時10分
場 所	小牧市役所 本庁舎6階 601会議室
出席者	<p>【委員】(名簿順) 高野委員、三輪委員、竹内委員、玉置委員、望月委員、夏目委員、小栗委員、澁谷委員、高濱委員、清水委員、加藤(陽)委員、中島委員、森委員、三園委員、加藤(総)委員</p> <p>【事務局】 健康生きがい支え合い推進部 永井部長、高木次長 健康生きがい推進課 鈴木課長、倉知係長、 宮田主査、岡本主査、田中保健師 保健センター 澤田所長、三枝統括保健師、吉村係長、森係長、小川係長、 齊木保健師、酒向保健師</p>
欠席者	<p>【委員】(名簿順) 寺本委員、土屋委員</p>
傍聴者	1名
配付資料	資料1 小牧市健康づくり推進審議会条例 資料2 ヘルスラボ・こまきについて 資料3 令和8年度健康づくり関連事業について 参考資料 ヘルスラボ・こまきリーフレット・チラシ
<p>1 開会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ あいさつ ・ 委嘱状の交付 ・ 委員の紹介 <ul style="list-style-type: none"> ・ 委員名簿をもって紹介 ・ 会長、副会長の選任 <ul style="list-style-type: none"> ・ 高野委員を会長、竹内委員を副会長として選任(一同異議なし) ・ 会長・副会長あいさつ <p>2 議題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ヘルスラボ・こまきについて 事務局) <ul style="list-style-type: none"> ・ 資料2をもとに説明 ● オーラルフレイルへの対応 竹内副会長) <ul style="list-style-type: none"> ・ フレイルチェックに加え、オーラルフレイルチェックの導入を検討してほしい。 事務局) <ul style="list-style-type: none"> ・ オーラルフレイルチェックとしては実施していないが、「お口の相談会」や講座を通じて情報提供を行っている。 高野会長) <ul style="list-style-type: none"> ・ お口の講座の参加率が低く、さらなる利用促進が必要。 ● 若年層・無関心層へのアプローチ 	

夏目委員)

- ・ 40代・50代においても体力の低下やフレイルの兆候がみられる、いわゆる「隠れフレイル」の状態にある人がいるとされているが、当該年代はまだ自分には関係がないと感じている場合が多い。
- ・ 握力測定など簡易な入口から段階的にフレイルチェックへ誘導する方法が有効。
- ・ 健康に無関心な層も対象に、自然に参加できる仕組みが必要。
- ・ 来館者数が増加した月（8月・10月）の要因は何か。

事務局)

- ・ 8月は栄養の日のイベント開催、InBody チャレンジ、体操のリニューアルが要因。
- ・ 10月は市民まつり関連来館やピラティス講座の増加が要因。

夏目委員)

- ・ イベント機会を活用し、体験・測定への導線を強化すべき。

● 周知・広報の課題

加藤（陽）委員)

- ・ 施設の良さが十分に伝わっておらず、認知不足が課題。
- ・ 利用者にとってのメリットを発信する必要がある。

● 参加ハードル（予約・アクセス）

中島委員)

- ・ 予約制が心理的ハードルとなっている。
- ・ 巡回バスを乗り継いで来館することが負担となるなど、移動手段の制約により利用が難しい高齢者も多い。
- ・ 予約不要の体験機会の提供が望ましい。
- ・ 地域の集会所などでの巡回実施が有効ではないか。

事務局)

- ・ フレイルチェックは希望するサロン等へ出向く形で巡回を実施予定。
- ・ 来館困難な層への対応として展開する。

● イベント・生活動線での展開

澁谷委員)

- ・ 近年の健康づくりにおいては、健康に関心のない層も自然に健康へと導いていく視点が重要。
- ・ 健康を主目的としないイベント等の中に健康に関する要素を取り入れ、来場者を自然に取り込む工夫が求められる。
- ・ 予約やID登録を不要とした体験機会を設けるなど、誰もが気軽に参加できる仕組みを整えるとともに、広報誌や商店街のチラシ等を活用し、市民生活のさまざまな場面で情報に触れる機会を創出することが必要。

高野会長)

- ・ 市民会館での催し（例：落語会）など、既存のイベントにおいて主催者の許可を得たうえでスペースを活用し、フレイルチェックを実施してはどうか。
- ・ ヘルスラボ・こまきが5階に設置されている点を踏まえ、1階のスペースを活用してのぼりを設置し、「握力チェック（フレイルチェック）」を実施するなど、健康を目的として来ていない来場者を自然に取り込む工夫が必要。

加藤（陽）委員）

- ・ ラボ 1 周年記念イベントにおいては多くの来場者があったことから、イベントと組み合わせた実施や、買い物客が気軽に立ち寄れるような情報発信が必要。
- ・ 握力測定など、気軽に参加できる工夫を行うとともに、予約が参加の障壁となっていることから、予約不要で利用できる仕組みの導入も検討すべき。

● 企業との連携

澁谷委員）

- ・ 働く世代の参加促進に課題があることから、企業単位や職場単位、さらには職場内のグループ単位での参加を促す取組を進めてはどうか。
- ・ 商工会議所などの産業関係団体とも連携し、企業側への働きかけを行うなど、産業分野からの接点を活用したアプローチが有効。

加藤（総）委員）

- ・ 企業においては、健康経営度調査において PDCA サイクルを回すことが求められているが、従業員の健康状態を数値として把握する機会は年 1 回の健康診断に限られているのが現状。
- ・ ヘルスラボ・こまきが企業を訪問するなどの形で活用できる仕組みがあると望ましい。
- ・ 「ヘルスラボ・こまきに行けばいつでも測定できる」ことを周知することで、企業と市の双方にとって有益な、いわゆる Win-Win の取組につながると考える。

● 総括

事務局）

- ・ 今週末に小牧商工会議所主催の産業フェスタにおいて、ヘルスラボ・こまきの紹介ブースを設置する予定である。
- ・ 委員からの提案を踏まえ、他のイベント等における新たな機会の創出についても検討していきたい。
- ・ 健康経営支援の場を通じて企業への PR は行ってきたが、今後はより具体的な活用方法についても検討を深めていく必要がある。
- ・ 今後のイベントにおいても継続的に PR を行い、利用促進につなげていく。

3 報告

・ 令和 8 年度健康づくり関連事業について

事務局）

- ・ 資料 3 をもとに説明

● 女性の健康づくりに関する専門部会の設置について（質問）

澁谷委員）

- ・ 事業説明において、食育、歯と口腔の健康づくり、糖尿病対策の 3 つの専門部会の取組が、それぞれの施策の中に反映されていることが確認できた。
- ・ 一方で、第 3 次健康日本 21 においては「女性の健康づくり」が重要なテーマとして位置付けられており、本市においてもがん対策をはじめとする関連事業が実施されている。

- ・ こうした状況を踏まえ、女性の健康づくりについても、既存の専門部会と同様に、専門的に検討する組織（専門部会）を設置する考えがあるかについて伺いたい。

事務局)

- ・ 本事業については昨年度より、各担当がそれぞれの視点から意見を持ち寄り、個別事業ごとに検討を重ねながら構築してきたもの。
- ・ 今年度は、これら個別に積み上げた取組を整理・統合し、年間計画のもとで分野横断的に連携を図りながら推進している状況。
- ・ 今回提案のあった専門部会の設置については、貴重な意見として受け止め、今後の検討課題としたい。

高野会長)

- ・ 女性の健康づくりは若年層から高齢者まで、日常的な症状からがん対策に至るまで非常に幅広い分野にわたるものであり、一括りに扱うことが難しい多岐にわたるテーマである。
- ・ さまざまな場面で議論を重ねていくことが重要であり、専門部会の設置は有効な提案である。
- ・ 既存の専門部会については、専門家を中心に構成されているのか確認したい。

事務局)

- ・ 専門部会については、それぞれの分野に応じて構成メンバーに特徴を持たせて編成している。
- ・ 糖尿病対策の専門部会では専門医等の参画を得て助言をいただいているほか、食育の専門部会では学校関係者や県の食育担当部局の職員など、食に関わる多様な分野の関係者に参加いただいている。また、歯と口腔の健康づくりの専門部会においては、歯科医師に加え、職域への働きかけを視野に企業関係者にも参画いただくなど、それぞれの目的に応じた構成としている。

高野会長)

- ・ 女性の健康づくりは分野が非常に広いため、専門家のみで構成するのではなく、多様な立場の関係者が参画する体制としてはどうか。

4 その他

- ・ 議事録を作成後、皆様に確認いただきたい。
- ・ 次回は、11月18日（水）午後2時から開催予定。

5 閉会